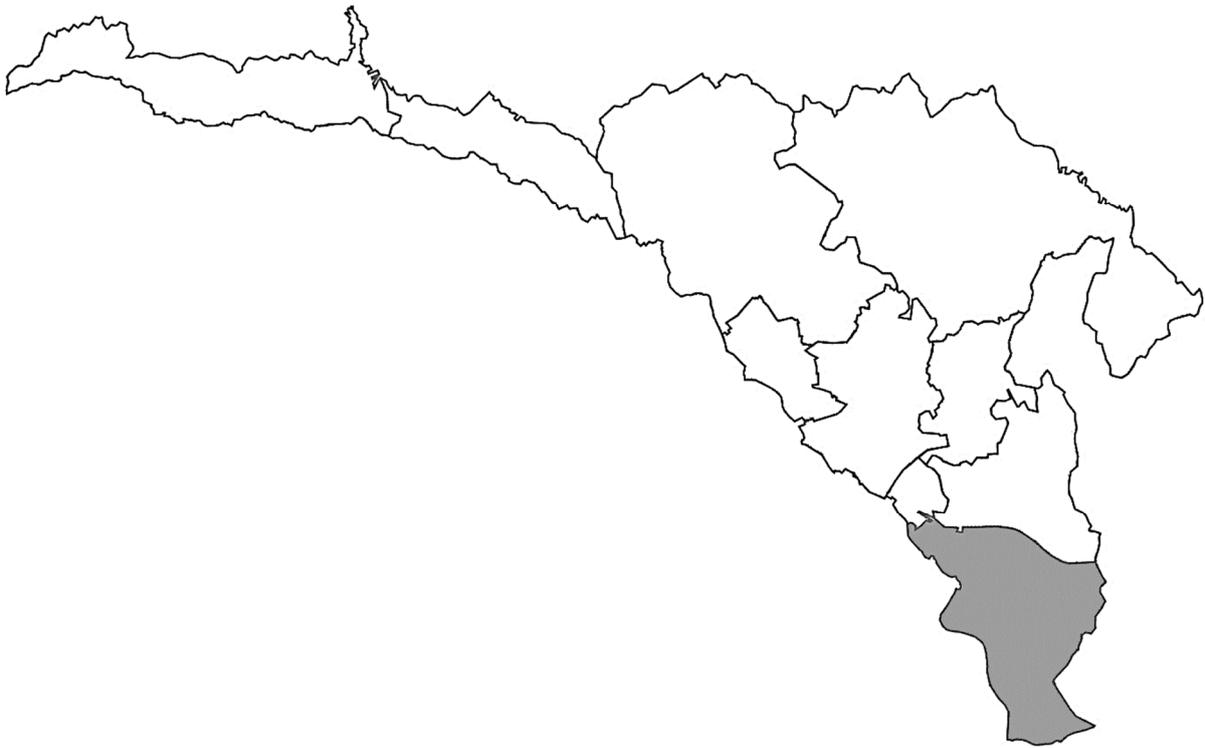


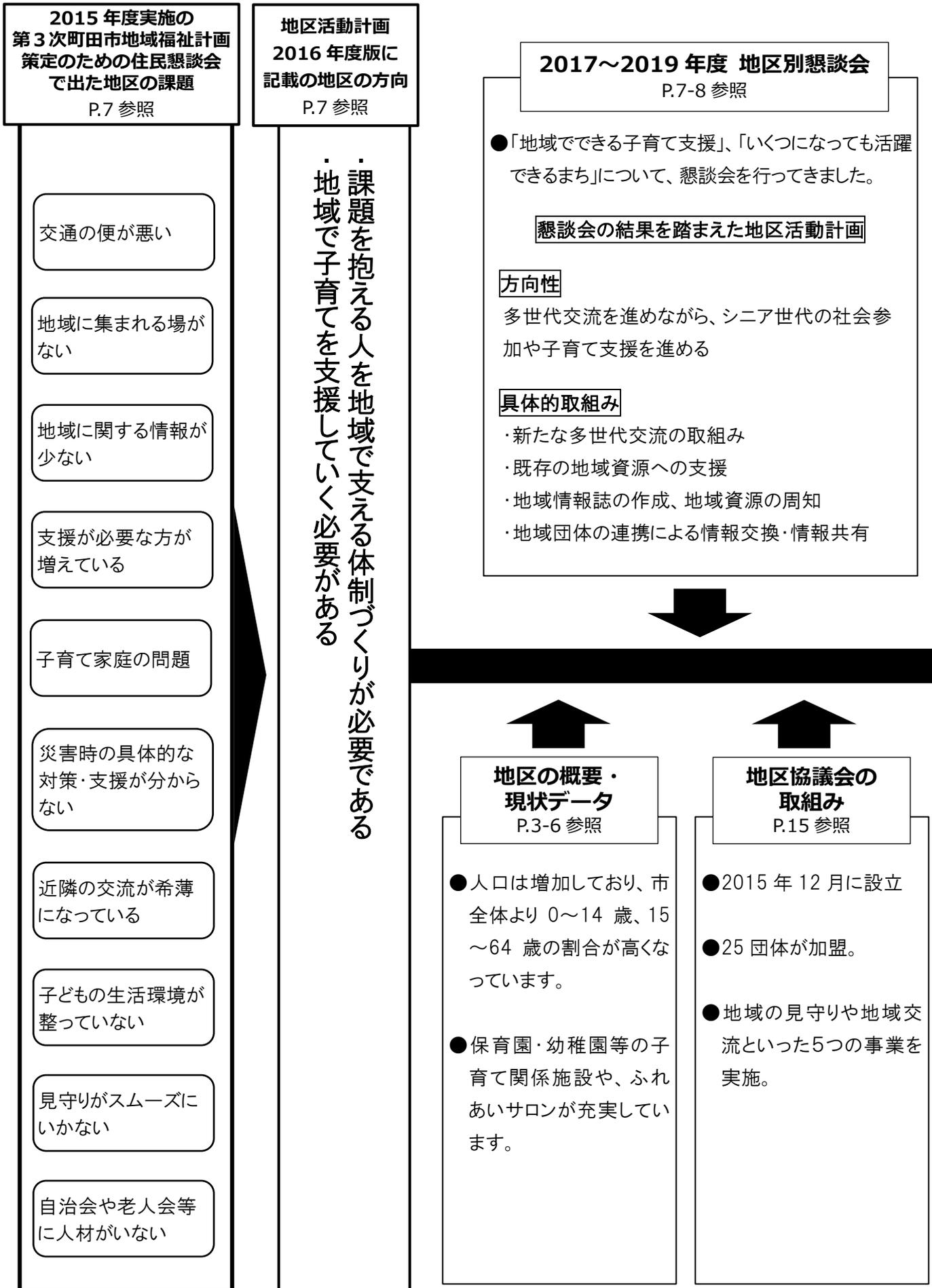
南地区 基礎資料



2022年度 町田市地区別懇談会

基礎資料につきましては、開催日当日に使用する資料ではありません。
ご参加いただく皆様に事前にお目通しいただけるよう、地区の概況を
まとめた資料となっております。

1. 過去5年間の取組み等を踏まえた地区のまとめ



**2020年度
地区別アンケート**
P.9-13 参照

コロナ禍における活動について

- コロナ禍で4分の1の団体が活動を休止しており、継続・再開している団体も7割弱が活動を縮小しています。

**アンケート結果を踏まえた
今後の方向性**

コロナ禍でも工夫していることを団体同士で共有しながら団体活動の活性化に向けて支援を行います。

**5年間を通して
生まれた取組み**
P.14 参照

- 福祉施設や事業所、関係団体などが参加する『南あんしんプロジェクト』が2020年7月に立ち上がり、分野を超えた連携が進んでいます。

**タウンミーティング
の結果** P.21 参照

**住みたい(なりたい)
まちの姿について**

- 「子ども」に関連する意見が多くなっています。
(居場所、子育て支援、多世代交流等)

**過去5年間の取組み等を踏まえ
見えてきたこと**

◆**地域活動団体同士の交流の場づくり、
情報交換・情報共有の促進**

- ・地区別懇談会の結果から、具体的取組みとして、地域団体の連携による情報交換・情報共有ということが記載されています。
- ・2020年度の地区別アンケートでは、地区別懇談会で取り入れてみたいテーマとして団体同士の連携、情報交換・情報共有ということが多く挙げられており、今後の方向性でも、コロナ禍で工夫していることを団体同士で共有するということが示されています。

- 以上のことから、オンラインも活用しながら、地域活動団体同士の交流の場づくり、情報交換・情報共有の促進し、2016年度の地区の方向である地域における子育て支援を引き継ぎながら、シニア世代の社会参加と子育て支援を促進する多世代交流を促進することが重要です。

◆**地域活動団体の連携による住民への
地域情報・地域資源の周知**

- ・市民アンケート調査では、福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度は低く、地域情報を気軽に得られることも求められています。
- ・地区別懇談会の結果から、具体的取組みとして、地域情報誌の作成、地域資源の周知ということが記載されています。

- 以上のことから、今後は地域活動団体の連携による住民への地域情報・地域資源の周知を促進することが重要です。

◆**地域活動団体・関係機関の連携による
課題を抱える人を地域で支える体制づ
くりの検討**

- 上記の2つを促進しながら、2016年度の地区の方向である課題を抱える人を地域で支える体制づくりを地域活動団体・関係機関の連携によって進めていくことが重要です。

市民アンケート調査

P.16-20 参照

- 回答者の平均年齢も市全体より低く、2世代世帯が多くなっています。地域活動・ボランティア活動に参加する割合も市全体よりは低く、参加しない理由は半数程度が「仕事・家事・育児で忙しいため」と回答しており、現役世代が多いことが考えられます。参加しやすくなる条件も、仲間や友人がいること、家の近く、わずかな時間等が重視されているとともに、謝礼金に対する希望も多くなっています。
- 福祉に関わる相談窓口機関等の認知度も全体的に低く、関心が低いことがうかがえます。
- 地域の暮らしやすさについて不満は多くないことも関係しているかもしれませんが、住民同士の協力関係が必要と考える人の割合は市全体より低くなっています。協力関係をつくるために必要なことは、情報を持っていない人が多いためか、地域情報を手軽に得られることが最も重視されています。

2. 地区の概要・現状データ

<南地区の該当町名>

小川 1～7 丁目、金森 1～7 丁目、金森東 1～4 丁目、つくし野 1～4 丁目、
鶴間 1～8 丁目、成瀬が丘 1～3 丁目、南つくし野 1～4 丁目、南町田 1～5 丁目

(1) 5年間の地区の変化と市全体との比較

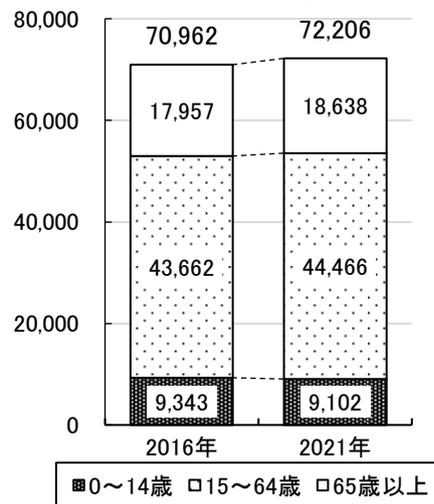
<5年間の地区の変化>

- 地区内総人口の増加 (P.4「地区内総人口」参照)
- 75歳以上人口(後期高齢者)の増加 (P.4「人口」参照)
- 要介護認定者数の増加 (P.4「要介護認定者数」参照)

<町田市全体との比較>

- 市全体より0～14歳、15～64歳の割合が高く、65歳以上の割合が低い (P.4「人口」参照)
- 町内会・自治会連合会加盟団体への世帯加入率は、南地区が高い (P.4「町内会・自治会」参照)

地区別人口の変化



(2) 南地区の概要

<人口> (2021年10月1日現在)

- 72,206人
(14歳以下の割合：12.6%、65歳以上の割合：25.8%)

<特徴>

- 南町田グランベリーパーク駅周辺は大型商業施設を中心に、市外からも人が集まるにぎわいの場となっている。
- 南町田では2014年に地区社協が設立されている。
- 保育園・幼稚園等の子育て関係施設や、ふれあいサロンが充実している。

<主な資源>

- ・駅：3駅(つくし野駅、すすかけ台駅、南町田グランベリーパーク駅)
- ・高校・大学：高校1校
- ・高齢者支援センター：2か所
- ・あんしん相談室：2か所
- ・地域子育て相談センター：1か所
- ・子どもセンター：1か所
- ・障がい者支援センター：1か所

(3) 南地区の現状データ

		南地区		町田市全体	
		2016年度	2021年度	2016年度	2021年度
人口	地区内総人口	70,962人	<u>72,206人</u>	428,203人	430,607人
	0～14歳	9,343人 (13.2%)	9,102人 (<u>12.6%</u>)	55,977人 (13.1%)	51,516人 (<u>12.0%</u>)
	15～64歳	43,662人 (61.5%)	44,466人 (<u>61.6%</u>)	261,697人 (61.1%)	262,247人 (<u>60.9%</u>)
	65歳以上	17,957人 (25.3%)	18,638人 (<u>25.8%</u>)	110,528人 (25.8%)	116,844人 (<u>27.1%</u>)
	75歳以上(再掲)	8,821人 (12.4%)	<u>10,285人</u> (14.2%)	53,117人 (12.4%)	63,573人 (14.8%)
世帯	世帯数	30,565世帯	32,505世帯	192,005世帯	202,737世帯
	世帯あたり人口	2.32人	2.22人	2.23人	2.12人
要介護認定者数	要支援1	459人	633人	2,773人	4,170人
	要支援2	334人	382人	2,057人	2,500人
	要介護1	714人	840人	4,327人	5,435人
	要介護2	597人	596人	3,398人	3,411人
	要介護3	444人	418人	2,394人	2,734人
	要介護4	412人	466人	2,224人	2,841人
	要介護5	340人	342人	2,057人	2,131人
	合計	3,300人	<u>3,677人</u>	19,230人	23,222人
参考:要介護認定率 ※1	18.4%	19.7%	17.4%	19.9%	
	認知症高齢者数 ※2	1,747人	1,094人 ※5	10,040人	7,286人 ※5
障がい者数 ※3	身体障がい	1,949人	1,882人	11,808人	11,544人
	知的障がい	421人	483人	3,117人	3,253人
	精神障がい	608人	788人	3,698人	5,378人
	合計	2,978人	3,153人	18,623人	20,175人
	人口に占める割合	4.2%	4.4%	4.3%	4.7%
町内会・自治会 ※4	団体数	43	43	226 (309)	220 (310)
	加入世帯数	16,780世帯	16,020世帯	89,566世帯 (103,595世帯)	83,872世帯 (98,255世帯)
	加入率	55.3%	<u>49.5%</u>	47.0% (54.3%)	<u>41.6%</u> (48.8%)

○人口、世帯数：各年10月1日現在（住民基本台帳に基づく）（総人口には年齢不詳1人を含む。）

○要介護認定者数、認知症高齢者数：各年10月1日現在

○障がい者数：2016年は10月17日現在／2021年の身体・知的は10月1日現在、精神は2月7日現在（実績値）

○町内会・自治会：4月1日現在

◆備考◆

※1 要介護認定率は参考数値（要介護者数に64歳以下も含むため）

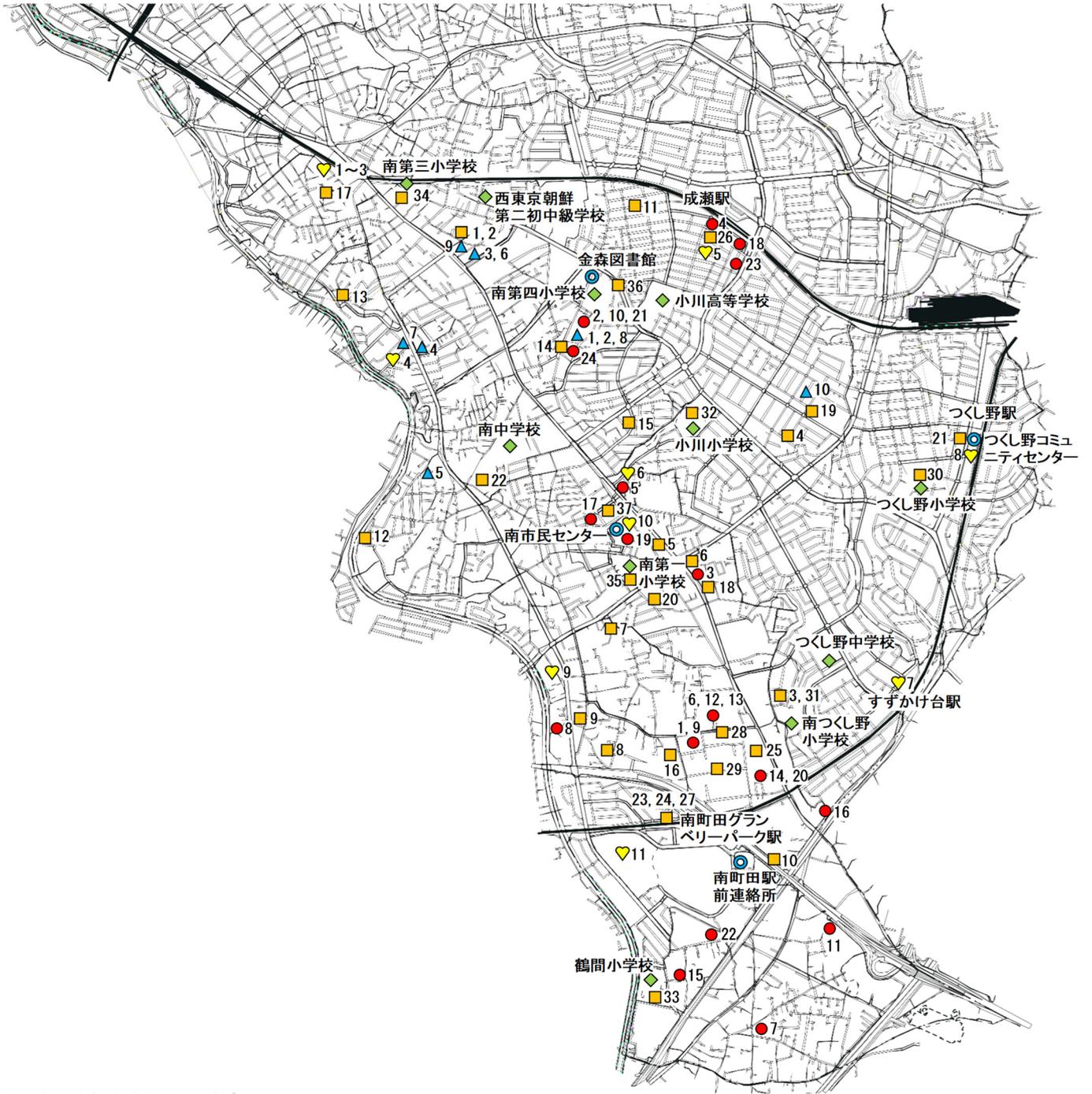
※2 要支援1～要介護5を持つ方のうち、日常生活自立度Ⅱ以上の方

※3 障害者手帳の所持数

※4 町田市町内会・自治会連合会に加盟している団体数（ ）内は非連合を含めた値

※5 2021年の認知症高齢者数は、新型コロナウイルス感染症の特例で、介護度をそのまま1年延長している方は主治医意見書が提出されていないことと、認定調査を実施していないため、前年よりも認定者数が少ない数値となっています。

3. 地区資源マップ



【地区資源リスト】

●子ども・子育て関係の施設(■)

<地域子育て相談センター>

- 1 南地域子育て相談センター

<保育園>

- 2 市立金森保育園
- 3 南つくし野保育園
- 4 もりのおがわ保育園
- 5 光の原保育園
- 6 こびとのもり保育園
- 7 田園保育園
- 8 ハッピードリーム鶴間(本園)
- 9 ハッピードリーム鶴間(分園ハッピードリームアネックス)
- 10 レイモンド南町田保育園
- 11 成瀬南野保育園
- 12 こばと保育園
- 13 こうりん保育園
- 14 ねむの木保育園
- 15 町田南保育園
- 16 子どもの森南町田保育園

<幼稚園>

- 17 町田ひまわり幼稚園
- 18 南ヶ丘幼稚園
- 19 小川幼稚園
- 20 鶴間幼稚園
- 21 つくし野天使幼稚園

<認定こども園>

- 22 認定こども園 光幼稚園

<小規模保育事業所>

- 23 もりのこ第一保育園
- 24 もりのこ第二保育園
- 25 KBCほいくえん南町田 ALIVE
- 26 わかくさのおうち
- 27 (仮) もりのおうち保育園(2022年度新設)

<家庭的保育室(保育ママ)>

- 28 野いちご保育室

<認証保育所>

- 29 ポピンズナーサリースクール南町田

<学童保育クラブ>

- 30 つくし野学童保育クラブ
- 31 南つくし野学童保育クラブ
- 32 わんぱく学童保育クラブ
- 33 鶴間ひまわり学童保育クラブ
- 34 金森学童保育クラブ
- 35 南第一さくら学童保育クラブ
- 36 どん子学童保育クラブ

<子どもセンター・子どもクラブ>

- 37 子どもセンターばあん

●高齢者・介護保険関係の施設(●)

<相談>

- 1 南第1高齢者支援センター
- 2 南第2高齢者支援センター
- 3 小川あんしん相談室
- 4 成瀬ヶ丘あんしん相談室

<小規模多機能型居宅介護>

- 5 小規模多機能型居宅介護たすけあい小川

<認知症グループホーム>

- 6 グループホームあおぞら
- 7 花物語まちだ南

<特別養護老人ホーム>

- 8 みざわホーム

- 9 芙蓉園
- 10 合掌苑桂寮

<介護老人保健施設>

- 11 オネスティ南町田

<介護医療院>

- 12 ふよう病院介護医療院

<有料老人ホーム>

- 13 芙蓉ミオ・ファミリア町田
- 14 鶴の苑
- 15 ひだまりガーデン南町田
- 16 まどかすずかけ台
- 17 SOMPOケア ラヴィーレ南町田
- 18 有料老人ホームサニーライフ町田
- 19 ホームステーション らいふ町田

<有料老人ホーム(住宅型)>

- 20 住宅型有料老人ホーム鶴の苑

<養護老人ホーム>

- 21 合掌苑

<看護小規模多機能型居宅介護>

- 22 看護小規模多機能型居宅介護ペンギンステイ南町田

<定期巡回・随時対応型訪問介護看護>

- 23 そよ風定期巡回まちだ

<高齢者福祉センター(ふれあい館)>

- 24 ふれあいまみじ館

●障がい者・福祉関係の施設(▲)

<障がい者支援センター>

- 1 南地域障がい者支援センター

<計画相談支援>

- 2 合掌苑障がい者支援センター
- 3 相談支援センター シオン
- 4 相談支援事業所うらら
- 5 はる風

<生活介護(通所)>

- 6 シャロームの家
- 7 という
- 8 町田市わさびだ療育園

<共同生活援助(グループホーム)、短期入所(ショートステイ)>

- 9 アイリス
- 10 SMART

●ふれあいサロン・子育てサロン(♡)

<ふれあいサロン>

- 1 あおぞらふれあいサロン
- 2 ふれあい折り紙サロン
- 3 ポール体操といこいの場
- 4 ふれあいサロン18
- 5 ふれあいサロン成瀬が丘
- 6 お楽しみサロン さとわ
- 7 すずかけクラブふれあいサロン
- 8 ふれあいサロン・つくしの

<子育てサロン>

- 9 子育てサロンこまち
- 10 子育てサロンひまわり(南市民センター)
- 11 ゆるやかカフェ〜ぽっかぽか(鶴間公園)

【資源マップ上記載の凡例】

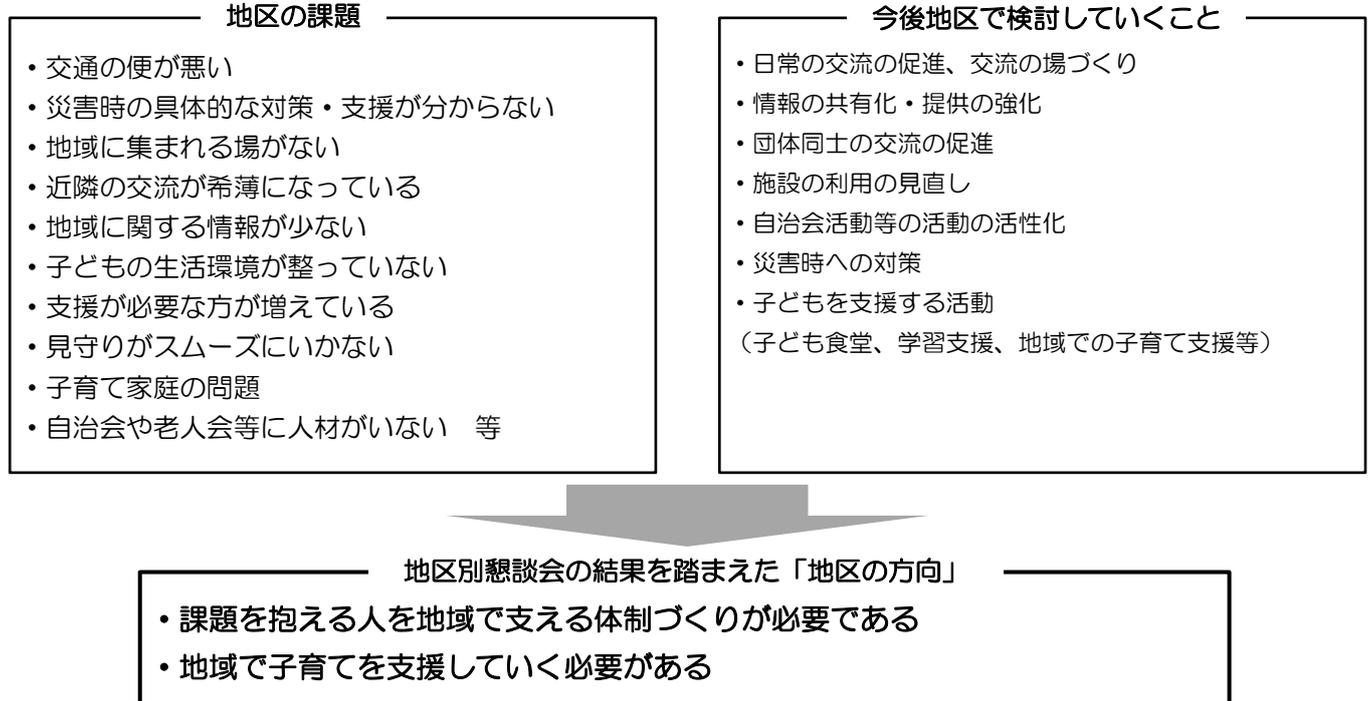
●教育施設(◆)

●その他の公共施設(◎)

4. 地区別懇談会の経過

(1) 南地区 地区別懇談会

① 第3次町田市地域福祉計画策定のための住民懇談会（2016年1月）

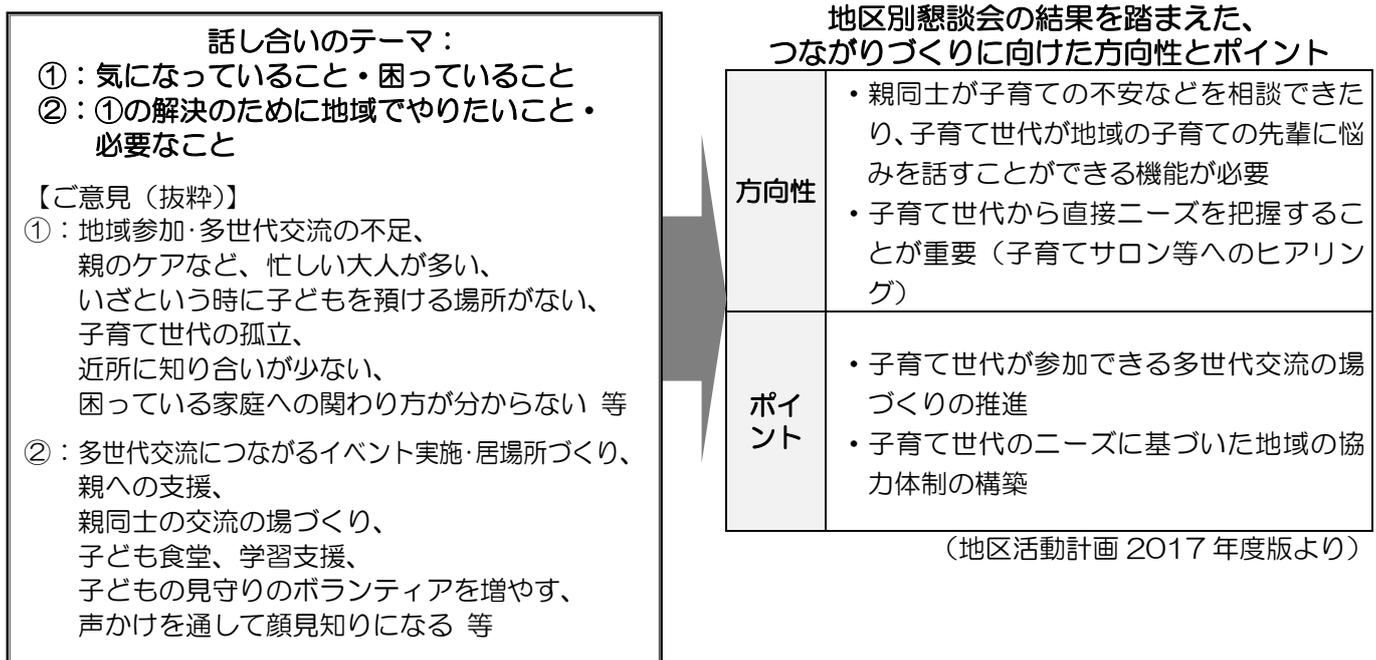


(第3次町田市地域福祉計画 第2部地区活動計画より)

※ 2017年度以降、第3次町田市地域福祉計画、町田市社会福祉協議会の第四次地域福祉活動計画に基づいて、市内10地区で地区別懇談会を開催しています。

② 2017年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：地域でできる子育て支援



③ 2018年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：地域でできる子育て支援について

話し合いのテーマ：
子ども・子育て世代の困りごとを解決するために
地域でできること

【ご意見（抜粋）】

- ・見守り
- ・地域資源の周知
- ・多世代交流
- ・担い手養成
- ・居場所づくり
- ・学習支援
- ・日頃のあいさつ・声かけ
- ・情報交換・情報共有
- ・親子向けのイベント
- ・子どもが活躍する場
- ・野外で遊べる場の設置
- ・保護者向けの相談 等

地区別懇談会の結果を踏まえた、
今後の方向性と具体的取組み

方向性	・多世代が関わる子育て支援の推進
具体的取組み	・地域の団体と連携しながら、「地域情報誌の作成」、「地域資源の周知」、「情報交換・情報共有」、「多世代交流」を進めていく (地区活動計画 2018年度版より)

地区別懇談会に先駆けて子育てサロンの参加者に「子育てで困っていること」についてヒアリングを行い、主に以下のご意見をいただきました。

- ・子どもの遊び場が足りない
- ・子どもを預けられる場が足りない
- ・子どもを守る環境づくりが必要
- ・子育て世代の親への支援が必要

④ 2019年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：いくつになっても活躍できるまち・南

話し合いのテーマ：近所の高齢者が地域の活動へ
一歩を踏み出すためにできること

【ご意見の分類（抜粋）】

- ・誘い合う、声かけ
- ・きっかけづくり
- ・集いの場、サロン
- ・運動
- ・町内会・自治会活動
- ・相手の心情考える
- ・情報共有・情報発信、広報・宣伝
- ・男性向けの対策
- ・ハードルを低くする
- ・趣味活動
- ・多世代交流
- ・生活支援、お手伝い
- ・地域活動
- ・自分ができること
- ・特技や能力の発掘 等

地区別懇談会の結果を踏まえた、
今後の方向性と具体的取組み

方向性	・多世代交流を進めながら、シニア世代の社会参加や子育て支援を進めていきます。
具体的取組み	・新たな多世代交流の取組みを進めていきます。 ・引き続き、既存の地域資源への支援を継続します。 (地区活動計画 2019年度版より)

2019年度の地区別懇談会は、これまで子育て世代への支援を進めてきましたが、シニア世代のマンパワーを地域づくりに活用するため、地域への参加・活躍してもらう方法、活動に誘う方法を話し合う機会として開催しました。

⑤ 2020年度 南地区 コロナ禍における活動についてのアンケート

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため10地区すべてで地区別懇談会の開催を中止し、地区ごとにアンケート調査を実施しました。
当アンケート調査では、コロナ禍における活動状況等を聞いています。

【回答者の基本属性】

図表 回答者の所属団体（複数回答）

	141回答
1 町内会・自治会	38人
2 青少年健全育成地区委員会	7人
3 NPO法人	7人
4 ボランティア団体	6人
5 ふれあいサロン・子育てサロン	6人
6 小・中学校PTA	8人
7 老人クラブ	18人
8 障がい当事者会・家族会	0人
9 自主グループ	25人
10 その他	13人
無回答	13人

【地区別懇談会についてのご意見】

●地区別懇談会の開催方法

「グループでの意見交換は行わず、その場で書面（アンケートなど）に記入してもらう」形での開催希望が多くなっています。

図表 地区別懇談会の開催方法

	141回答
1 密にならない程度でグループに分かれての意見交換を行う	24.8%
2 グループでの意見交換は行わず、その場で書面（アンケートなど）に記入してもらう	61.0%
無回答	11.3%

●南地区であったらいいと思う多世代交流活動（自由回答の抜粋）

<講座、講習会>

- ・パソコン、スマホ教室での多世代交流。
- ・高齢者に若年世代がパソコンやスマホの使用方法を教える場。お互いにライン等実際にやってみて交流を図る。若年層には学生・生徒を含む。
- ・文化的な講演会などの開催。学校・博物館など経験豊富なシニアの方々のお話を老若世代混ざって聴く。

<子ども食堂、子どもの学習支援、子育て支援>

- ・学習支援、校内整備環境（花壇づくり）、制服の簡単なお直しやゼッケン付けなどの裁縫作業など
→学校やPTAで行っている家庭支援で手助けが欲しい。
- ・子育て世代の負担軽減施策、子ども食堂、土日祝日対応の学童保育。
- ・子どもの学習支援、多世代が集える地域の居場所。
- ・子ども食堂 ふれあい（多世代交流）。

<趣味活動>

- ・音楽関係、歌、楽器。
- ・デジタルを利用した音楽絵画や音楽紙芝居の制作や発表をする活動への支援。
- ・趣味、学習等のサークル活動の多様化。

<子どもに教える活動>

- ・子どもたちに「ものづくり」のすばらしさを体験させる場所。工作室の設置、工作に関する講習会。
- ・昔遊び、伝承遊び、子どもとシニアの交流機会。

<その他>

- ・多世代が集える地域の居場所（多世代間の交流・親睦の推進）。
- ・町内市民農園での多世代交流。
- ・昔のような“ラジオ体操”常時開催したい。

●地区別懇談会で取り入れてみたいテーマ（自由回答の抜粋）

<団体同士の連携、情報交換・情報共有>

- ・活動団体同士で、多世代交流や実際に活動している連携・協力の事例などを情報交換、交流したい。高齢者と児童・学生の交流や連携協力や共同の実際の方は少なく、情報がほしい。
- ・参加の場の情報をアプリ等で一括管理し、利用者やコーディネーターが全体の社会資源の場を把握できるようにするための方策の検討等。
- ・各サークルの活動PRをもっと活用できる場がほしい。
- ・南地区で自慢できること、もの、ひとを集めてPRする。

<多世代交流、交流>

- ・子ども、年配者等のふれあい。
- ・多世代交流の実現。
- ・楽しく交流できる場。互いに得意な事を教えあったり、遊んだりできる相互交流。

<地域活動の方向>

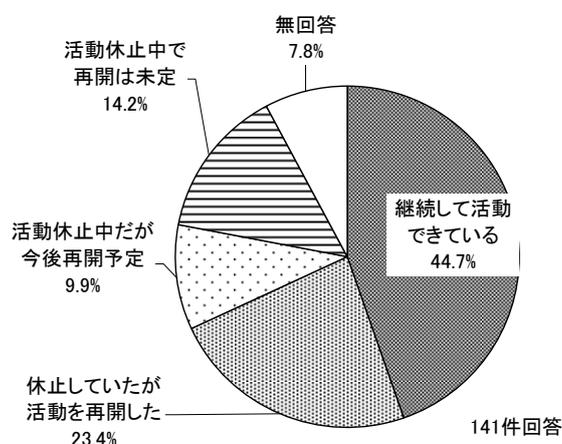
- ・高齢化社会を活性化するために必要とされる地域活動とは。
- ・地域の人の得意なことや時間をシェアする新しい頼りあいの形。
- ・介護支援の行き届いてない方に対してどのようにしていけば良いのか。
- ・地区全体で取り組むこと。
- ・SDGs への取り組み。

【コロナ禍における地域活動の状況について】

●コロナ禍における団体の活動状況

継続して活動できている団体は4割半ばとなっています。

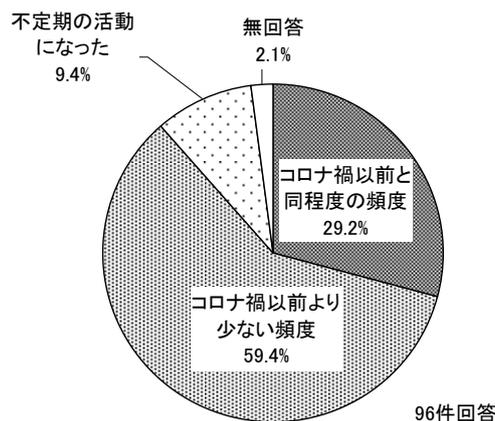
図表 コロナ禍における団体の活動状況



●活動の頻度

活動を継続している・再開した団体では、以前と同程度の活動ができているのは3割弱となっています。

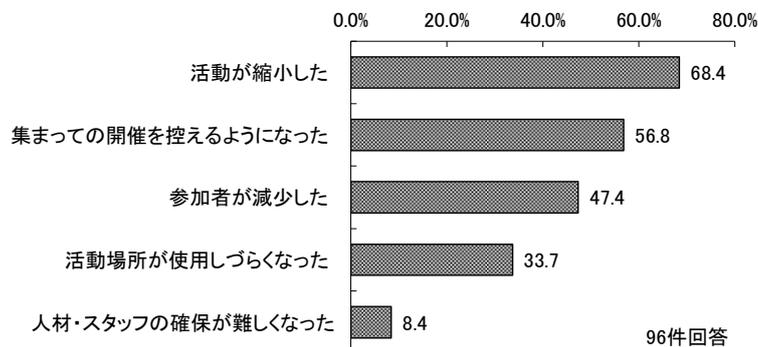
図表 活動の頻度（活動を継続している・再開した団体）



●コロナ禍での活動の変化

「活動の縮小」が最も多くなっています。

図表 コロナ禍での活動の変化（上位5位）
（活動を継続している・再開した団体、複数回答）



●コロナ禍での変化の具体的な内容（自由回答の抜粋）

<参加者の減少>

- ・色々な活動の参加者が大幅に減少し、クラブ自体の存続が難しくなった。
- ・現在、クラブのサークル活動は従前同様に実施しているが、参加人数は個人の判断により減少している。
- ・コロナに対して「こわい」が先で出て来られない人もあった。

<活動の休止、イベントの中止>

- ・非常事態宣言下で、すべて（会議、グラウンドゴルフ、輪投げ、映画、カラオケ、歌声サロンなど）中止。以降徐々に再開したが、一部は未だ再開できない行事もある。
- ・小学校に関連する行事が減ったので、PTAの活動も減った。PTAとしての行事もバザーの様な人が集まるものは中止にした。
- ・民生児童委員としての仕事が出来なくなった、訪問が難しい。

<オンラインの活用、その課題>

- ・定例会が開けない時が有り、紙のやり取りで廻っていた活動が停滞してしまった（ZOOM会議はできても、書類を渡せない）。
- ・月1回の集まっての定例会がメールでのやり取りになったり、人数を減らしたりして開催している。

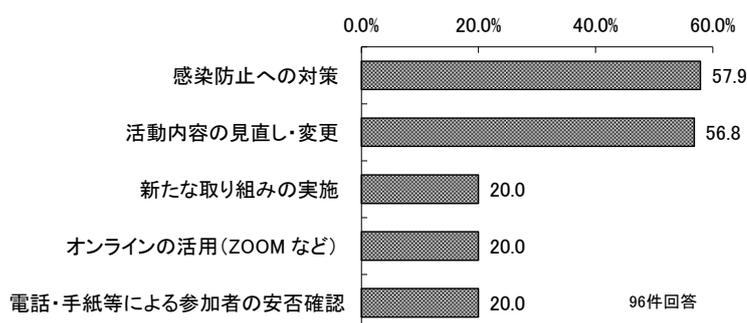
<会場、手順の変更>

- ・密を避けるために、広い部屋を借りることに変更した。会館から遠い人は自然に参加されなくなった。お茶菓子などは簡単なものになった（持ち帰ってもらう）。
- ・季節行事（じゃがいも、さつまいも掘り）は、3密を避けるために作業手順を大幅に変更した。

●変化に対するの対応策、工夫していること

「感染防止への対策」や「活動内容の見直し・変更」など具体的な検討・工夫が見られました。

図表 変化に対するの対応策、工夫していること（上位5位）
（活動を継続している・再開した団体、複数回答）



●変化に対して具体的に検討している対応策や工夫（自由回答の抜粋）

<オンラインの活用>

- ・年間計画での役員会定期総会は書面表決とし、事業委員会や連絡会（定期参画団体会議）はリモート（オンライン）での会議へ変更して開催している。
- ・活動範囲の縮小、他団体との連携をオンライン化した。
- ・自治会役員内はグループ LINE を組み、情報交換等、日々の連絡網として活用している。
- ・議事録のメール配信の検討（次年度くり越し課題）。
- ・PTA活動を見直すために会員にアンケートをとった。そこから減らせる活動やインターネットを使うことに変えられる仕事をわり出した。

<手紙、電話の活用>

- ・会員向けのおたよりを増やした（※会費を通常通り回収したため、細々と活動は続けていた。どんな活動をしているか周知し、興味、関心、理解を持ち続けて欲しいと考えたから）。
- ・高齢者見守り支援の訪問は控え、電話での安否確認や対応とした。
- ・ポスティングや電話を使って訪問のかわりとしている。

<具体的な感染防止対策>

- ・ほぼ 30 人のメンバーを半分に分け、時間をずらして 1 日に 2 度行うことにした。マスク着用、カウントをしないで町トレを行った。
- ・感染防止対策委員を 3 名新設して、定例会等で検温や消毒およびアルコールウェットティッシュによりイスや机、ドアノブ等の除菌を行った。

●活動が少なくなったり、できない中での心配ごと（自由回答の抜粋）

<参加者の健康状態等の心配>

- ・高齢者の活動低下による心身の低下が懸念される。また、具体的活動が制限されることにより、各団体の連携・協力や活動意識の低下へつながる可能性があると考える。
- ・交流が無くなりうつ状態になる人が出てきている。
- ・参加者同士の接触がなくなる事でのコミュニケーション不足、孤立。

<開催活動継続に向けた心配>

- ・1 月から休会をするも、いつ再開できるか見通しが見えない。
- ・大勢が集まったの会合不可のため、親睦のための方法に苦慮。
- ・活動回数は従前通りだが、利用者の減少が運営資金に影響している。
- ・元々活動に対する縮小化を望む声があり、また参加者（特に役員）を募るのが難しい状況であったことが加速しつつある。

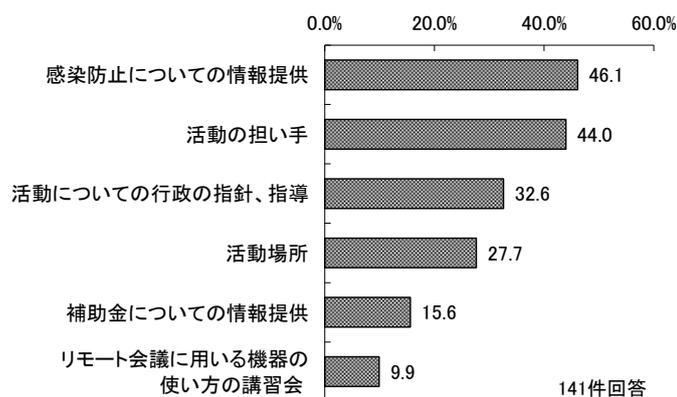
<その他>

- ・雑貨の販売などのマルシェイベントができないので、作り手の販路が少なくなった課題があります。
- ・PTA で学校と地域・保護者との連携不足になるのではないかと心配です。

●再開・継続していくために必要なこと

「感染防止についての情報提供」、「活動の担い手」の回答が多くなっています。

図表 再開・継続していくために必要なこと（複数回答）



アンケート結果を踏まえた今後の方向性・具体的取組み

方向性	・コロナ禍でも工夫していることを団体同士で共有しながら団体活動の活性化に向けて支援を行います。
具体的取組み	・報告会等を通じてアンケート結果を共有し、団体同士で情報交換を行います。

(地区活動計画 2020 年度版より)

(2) 5年間を通して生まれた取組み

- これまで南地区の地区別懇談会では、「地域でできる子育て支援」や「元気な高齢者の地域活動への参加」などを話し合い、多くのご意見をいただきました。
- 南地区では、『まちだ南地域魅力発見プロジェクト実行委員会』による、親子で参加できるハロウィンまちあるきイベントや映画上映会、地域の魅力を紹介した地域密着通信を発行するなど、地域の活性化に取り組んでいます。
- また、町トレ（町田を元気にするトレーニング）やラジオ体操、趣味活動、ふれあいサロンなどの地域住民による活動も活発に行われており、多くの高齢者が参加したり団体の運営に関わったりしています。
- しかし、新型コロナウイルス感染症拡大はこれまでの地域の活動にも大きな影響を与えました。2020年度の地区別懇談会では参集型ではなくアンケートを実施し、地域で活動している団体向けに「コロナ禍における活動について」を聞き実態を把握しました。コロナ禍では多くの団体が活動を休止、または縮小していることが分かりました。
- コロナ禍による、団体の活動休止や縮小は、参加者とりわけ高齢者の外出の機会が減り孤立化にもつながります。そのような中で、地域で活動している団体のなかには、活動場所をこれまでの屋内から感染リスクが少ない屋外に変えたり、LINE や Zoom を活用しオンラインを取り入れたりするなど、工夫しながら活動に取り組んでいます。
- また、南地区の新たな取組みとして『南あんしんプロジェクト』が2020年7月に立ち上がりました。福祉施設や事業所、関係団体などが参加し、「8050問題」など地域の福祉課題に、「高齢」「障がい」「児童」の分野を超えて連携しながら取り組んでいます。
- 2年間『南あんしんプロジェクト』を継続してきた中で、地域の福祉課題に取り組むには専門職のほか、もっと地域で活動している人たちの参加が必要と考え、住民主体の活動団体として「南地区社会福祉協議会」の立ち上げに向け、現在準備中です。



▲まちだ南地域魅力発見プロジェクト実行委員会
まち歩きの様子

5. 地区協議会の取組み

(1) 設立日・構成団体

<p><設立日></p> <p>●2015年12月1日（市内9地区目）</p> <p><構成団体></p> <p>●南地区町内会・自治会連合（43町内会・自治会）、青少年健全育成南第一地区委員会、青少年健全育成南第三地区委員会、青少年健全育成南第四地区委員会、青少年健全育成つくし野地区委員会、南第一地区民生委員・児童委員協議会、南中学校、つくし野中学校、南第一小学校、南第三小学校、南第四小学校、小川小学校、南つくし野小学校、鶴間小学校、つくし野小学校、小川高等学校、町田市消防団第2分団、町田市社会福祉協議会、南第1高齢者支援センター、南第2高齢者支援センター、南地域障がい者支援センター、南地区子育て相談センター、こばと保育園、シャロームの家、子どもセンターばあん（25団体）</p>

(2) 地区協議会のこれまでの主な取組み

事業名	概要	詳細（事業目的など）
地域の見守り事業・福祉フェア	<ul style="list-style-type: none"> 「南地区福祉フェア」の開催 	<p>実行委員会を組織し、南地区内の福祉分野で活動する団体を集めたイベントを開催する。団体間の交流、地域住民への活動の周知及び今後の活動への参画などを促進する。</p>
地域交流事業	<ul style="list-style-type: none"> 「南カフェ」の開催 	<p>南地区を中心に活動する、多くの団体、グループ、ボランティアなどが集い、活動発表などを通じて、それぞれの団体、地域の方々との交流を深める。</p>
子どもの見守り事業	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもの一斉見守り」の周知用チラシの作成 	<p>南地区協議会内の7つの小学校の登下校時の見守り活動を一斉に行い、ドライバーへの注意喚起と活動に従事する地域の団体の連携、携わる人と人との交流も活発になっていくことを通して、児童の安全と地域のつながりを促進する。</p>
広報広聴事業	<ul style="list-style-type: none"> 「南地区協議会だより」の発行 活動周知のためのポスター作成 	<ul style="list-style-type: none"> 地区協議会区域内の情報交流の促進 南地区協議会について、地区内の団体および住民への周知と理解の促進 さまざまな地域社会づくりの活動の担い手を増やす
地域交流事業・焼き芋プロジェクト事業	<ul style="list-style-type: none"> 焼き芋パーティーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「たき火」や「焼き芋」などを通して、親から子へ、大人から子供へ体験を伝承しながら、世代を超えた交流を深める。 日頃地域活動に関わる機会の少ない住民が、このプロジェクトを通し近隣の人々との交流を持つ機会を得る。

6. 市民アンケート調査の地区別集計結果

(仮称) 町田市地域ホッとプラン策定の基礎資料とするため、地域福祉に関する生活実態やご意見などを把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

調査対象：18歳以上の町田市内在住者 2,000人

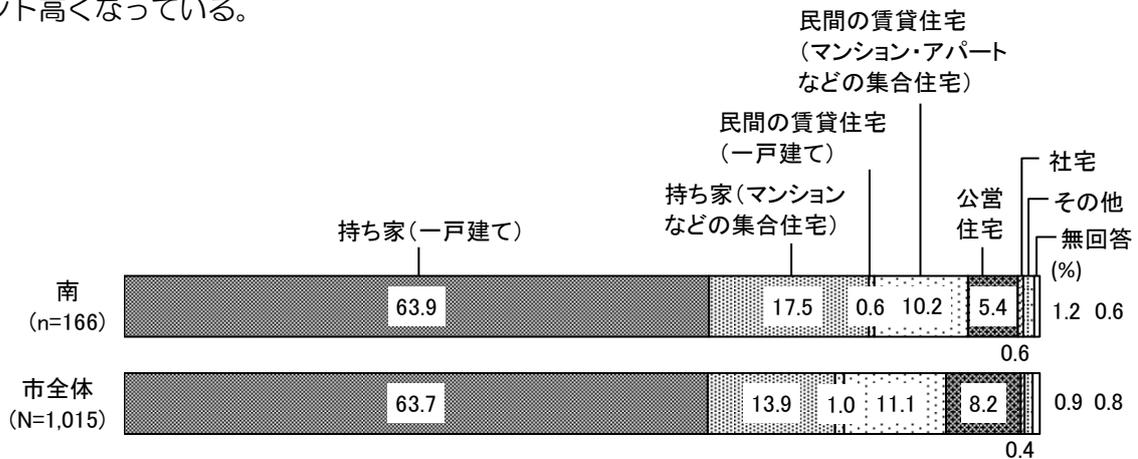
調査時期：2020年2月から3月

(1) 基本属性

- 年齢は平均56.3歳(全体は58.6歳)、職業は就労していない人が45.2%(全体は43.8%)である。

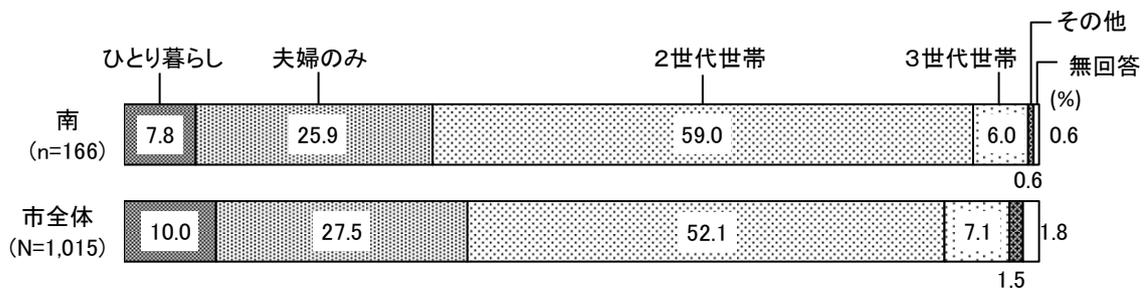
◆住まいの形態

- 住まいの形態は「持ち家(マンションなどの集合住宅)」が17.5%であり、全体と比較すると3.6ポイント高くなっている。



◆家族構成

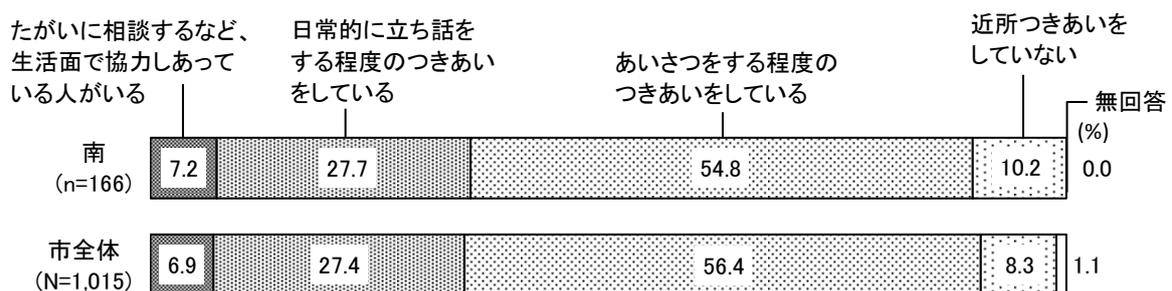
- 家族構成は「2世代世帯」が59.0%であり、全体と比較すると6.9ポイント高くなっている。



(2) 地域での暮らし

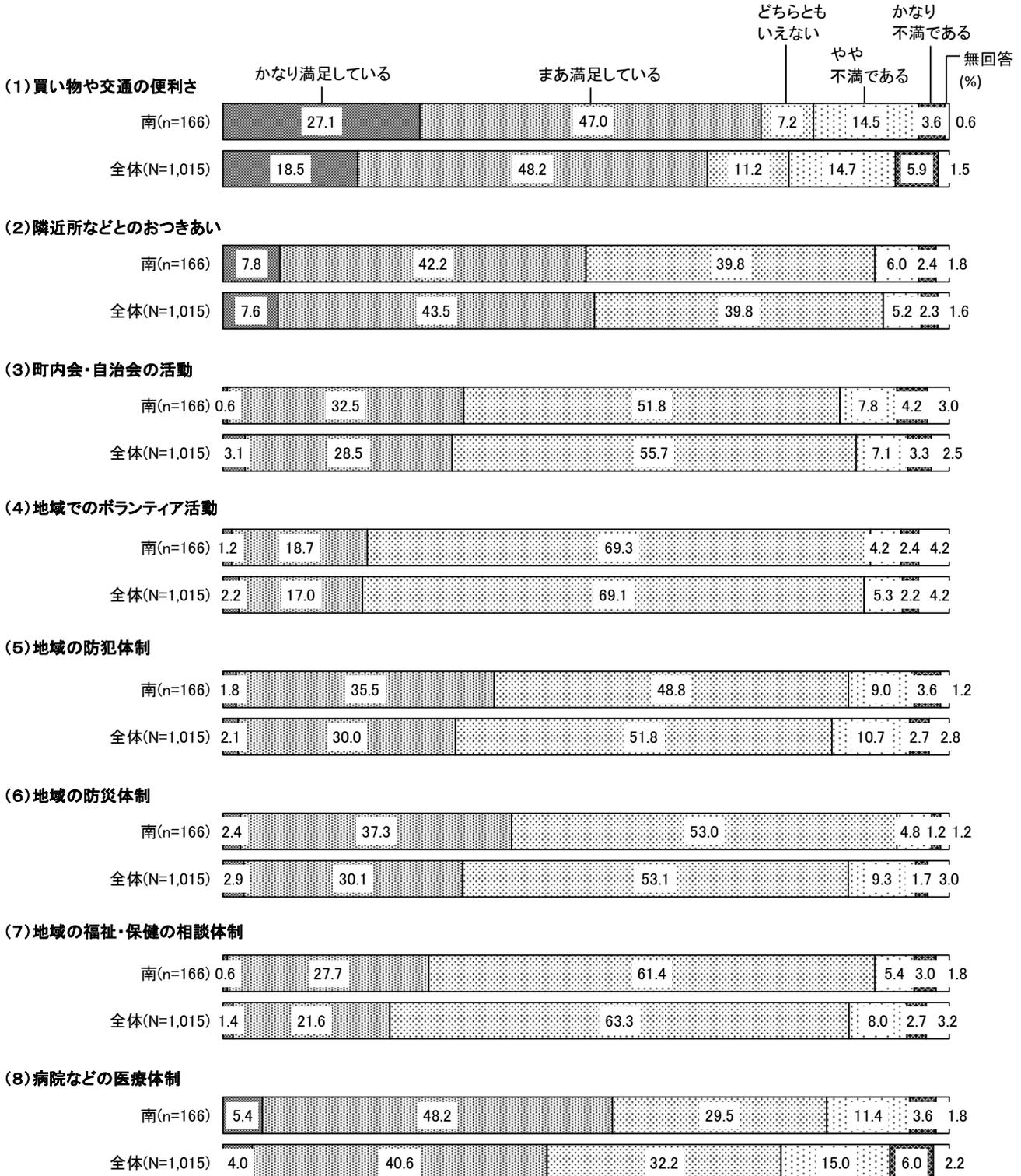
◆近所つきあいの程度

- 近所つきあいの程度は「近所つきあいをしていない」が10.2%であり、全体と比較すると1.9ポイント高くなっている。



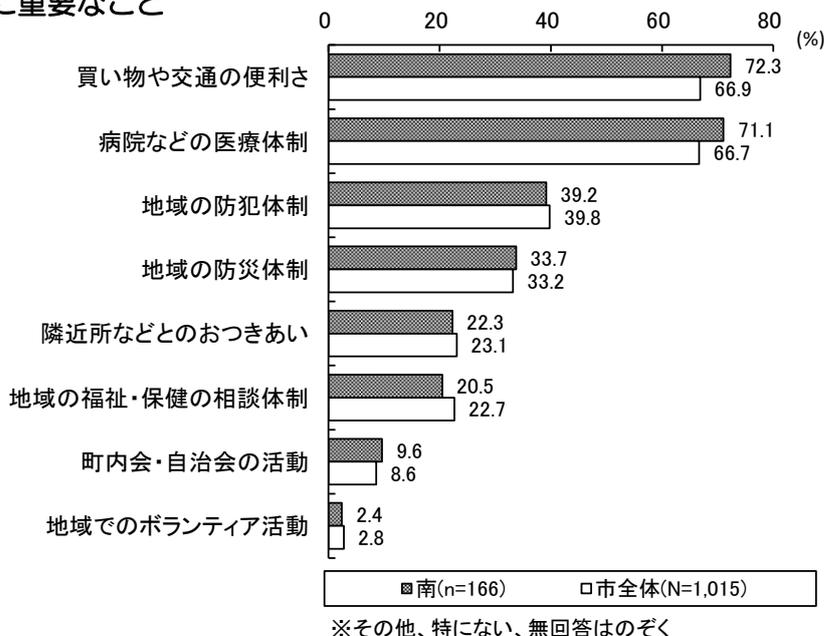
◆地域の暮らしやすさについての満足度

- ・ 地域の暮らしやすさについて、「かなり満足している」と「まあ満足している」を合計した割合（満足度）は、『買い物や交通の便利さ』で7割を超え、『病院などの医療体制』、『隣近所などのおつきあい』で5割を超えている。
- ・ 『買い物や交通の便利さ』、『病院などの医療体制』は全体と比較しても満足度が高い。
- ・ それ以外の項目は、満足度が40%以下であるが、『地域の防災体制』、『地域の防犯体制』、『地域の福祉・保健の相談体制』は、全体と比較すると5ポイント以上高くなっている。



◆地域で安心して暮らしていくために重要なこと

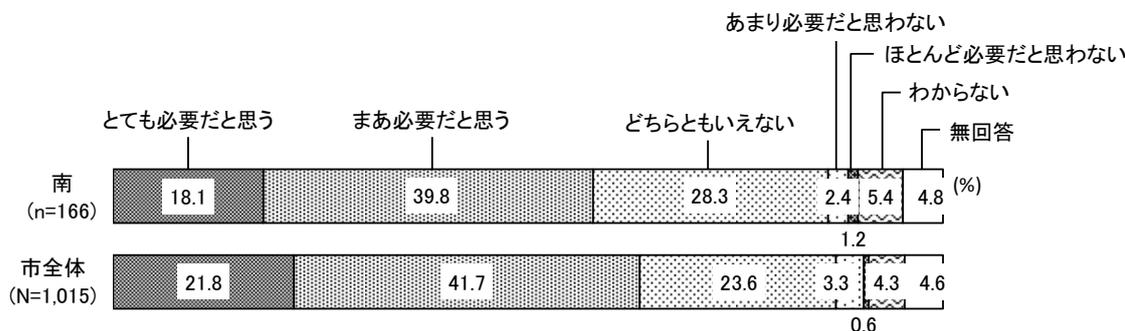
- 地域で安心して暮らしていくために重要なことは、「買い物や交通の便利さ」が最も多く、「病院などの医療体制」、「地域の防犯体制」が続いている。上位3項目は全体と同様であるが、「買い物や交通の便利さ」、「病院などの医療体制」は7割を超え、全体と比較すると高くなっている。



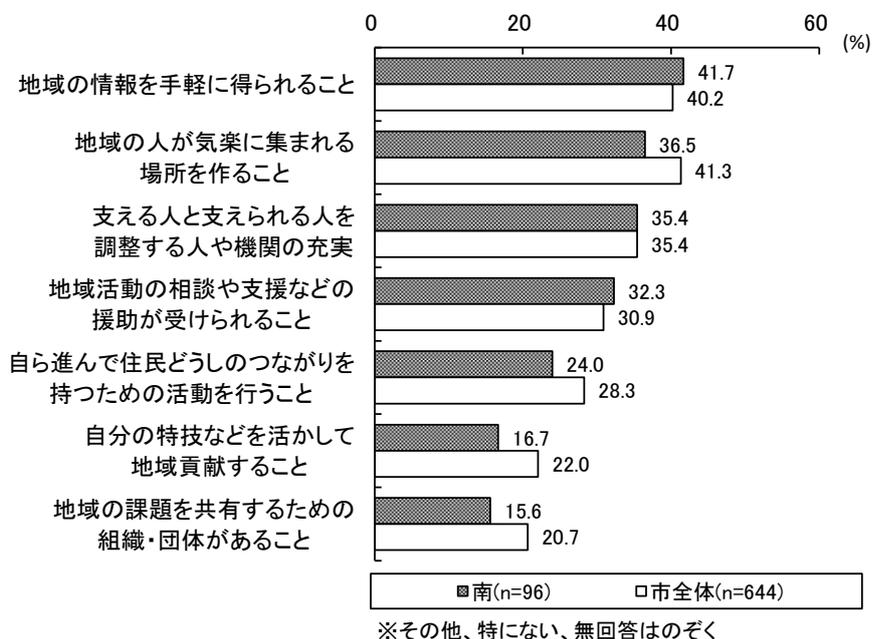
◆住民同士の自主的な協力関係の必要性、協力関係をつくるために必要なこと

- 住民同士の自主的な協力関係の必要性は、「とても必要だと思う」と「まあ必要だと思う」を合計した割合は57.9%であり、全体と比較すると5.6ポイント低くなっている。また、必要だと思うと回答した人に必要なことをたずねたところ、全体2位の「地域の情報を手軽に得られること」が最も多く、全体1位の「地域の人が気楽に集まれる場所を作ること」が続いている。

【必要性】



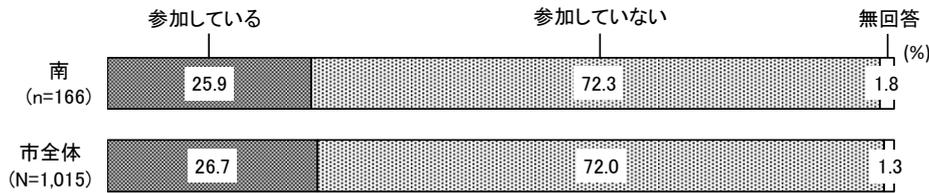
【協力関係をつくるために必要なこと】 <必要だと思う人>



(3) 地域活動・ボランティア活動

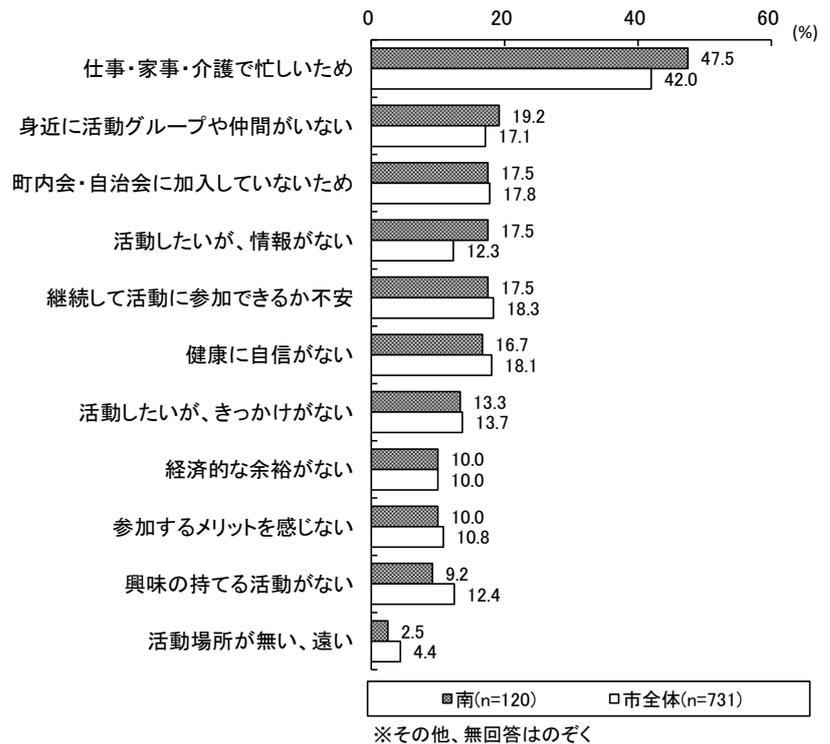
◆地域活動・ボランティア活動への参加状況

- 地域活動・ボランティア活動に「参加している」は 25.9%であり、全体と比較すると 0.8 ポイント低くなっている。



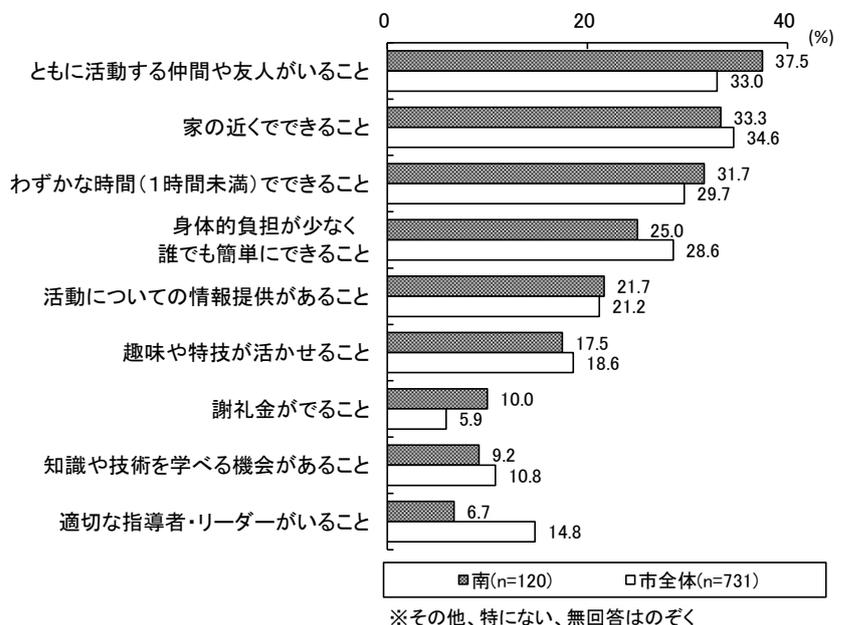
◆地域活動・ボランティア活動に参加していない理由<参加していない人>

- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人にその理由をたずねたところ、「仕事・家事・介護で忙しいため」が 47.5%と最も多く、その割合は全体を 5.5 ポイント上回っている。
- また、「活動したいが、情報がない」が 17.5%であり、全体を 5.2 ポイント上回っている。



◆地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる条件<参加していない人>

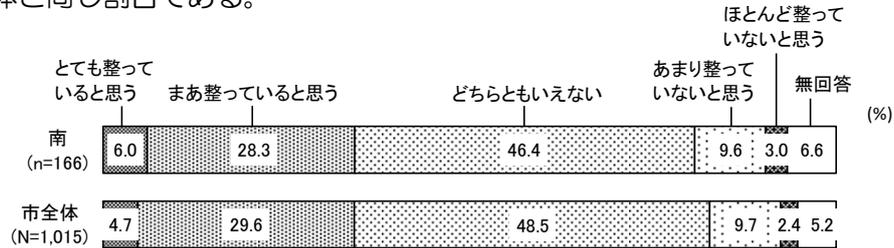
- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人に参加しやすくなる条件をたずねたところ、「ともに活動する仲間や友人がいること」が最も多く、その割合は全体を 4.5 ポイント上回っている。
- また、「謝礼金がでること (10.0%)」は全体を 4.1 ポイント上回り、「適切な指導者・リーダーがいること (6.7%)」は全体を 8.1 ポイント下回っている。



(4) 福祉サービス、福祉施策

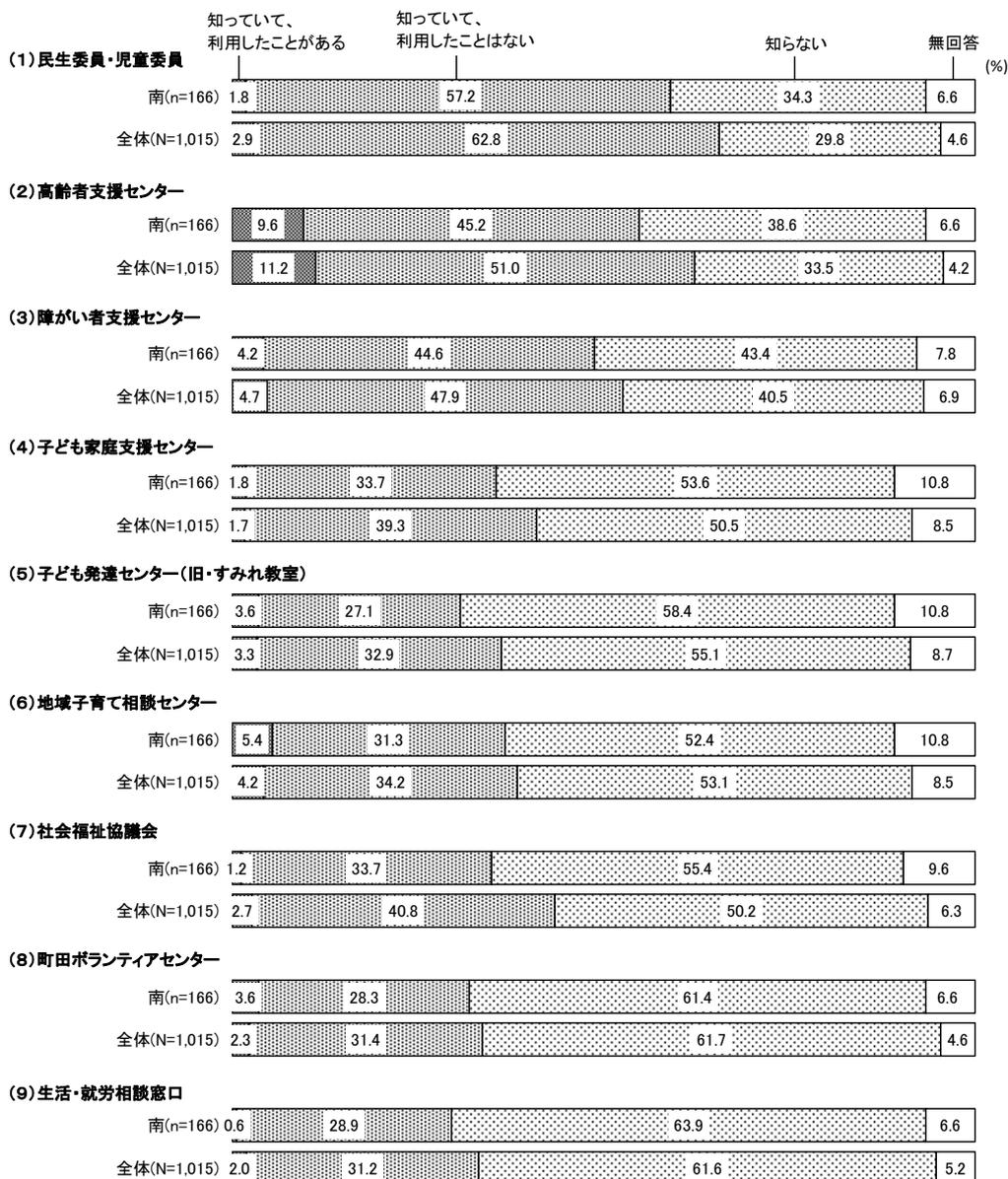
◆町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況

- 町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況は、「とても整っていると思う」が6.0%であり、全体と比較すると1.3ポイント高くなっている。「まあ整っていると思う(28.3%)」を合計すると34.3%であり、全体と同じ割合である。



◆福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度・利用状況

- 福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度(「知っている、利用したことがある」と「知っている、利用したことはない」の合計)は、すべての項目で市全体より低く、特に『民生委員・児童委員』、『高齢者支援センター』、『子ども家庭支援センター』、『子ども発達センター』、『社会福祉協議会』で全体を5ポイント以上下回っている。



7. タウンミーティング（地区別意見交換会）の結果

（1）実施目的・参加人数・主な参加者

<実施目的>

●2022年4月から始まる新たな市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定に向けて、2019年に町内会・自治会や地区協議会を対象の中心として、市内10地区でタウンミーティング（地区別意見交換会）を実施し、それぞれの地域にお住まいの方と一緒に、住んで良かったと思えるような、まちだの未来を考えました。

<参加人数（グループ数）>

●17人（3グループ）

<主な参加者>

●町内会・自治会、子ども会、地区協議会、PTA、青少年健全育成委員、中学生。

（2）住みたい（なりたい）まちの姿とご意見

① グループごとの話し合いから出た「住みたい（なりたい）まちの姿」

【Aグループ】自然があって子供からベテラン世代まで楽しく過ごせるまち

【Bグループ】多世代が応援するワイルドな子育てができるまち

【Cグループ】つながりと選択のある「エース」な町田

② タウンミーティングでいただいたご意見

<働き方>

- ・働く場所が近くにあると良い。
- ・テレワークなど働き方の選択肢あるのは良い。
- ・共働きでも働き方の選択ができればうまくいく。
- ・子どもが成長しても働き続けられる。
- ・開業しやすい環境にしてほしい。

<子ども>

- ・子ども同士の上下のつながりがあると良い。
- ・子どもが夢を抱けるようなイベント。
- ・町田オリジナルの町田っ子を育てていく（ワイルドな、自然な子）。

<遊び場>

- ・子どもが遊べる自然を残したい。
- ・あまり規制のない遊び場があるといい。
- ・自由に遊べる場所が欲しい。

<教育、学ぶこと>

- ・コミュニケーション能力を向上させるような教育が必要。
- ・語学教育を充実させる。
- ・社会を学べるような場所がほしい。

<その他>

- ・町田の中に「エース」（核となる場所）があると良い。
- ・身近に「スター」になる人がいると良い。
- ・地域全体が家族になるようなつながり。
- ・家に閉じこもらないような、イベント・つながりづくりが大切。
- ・やりたいことがやり続けられる環境（サポート）があると良い。
- ・コンパクトシティ化していく。
- ・行政や地域の垣根をとったイベントを！

（出典：各種ワークショップ等の取組み状況報告より）

URL：https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/sinokeikau/machida_mirairukuri_vision2040/kyodokento20201101.html

8. 過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）

- 2021年度の地区別懇談会の開催にあたり（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2022年度に延期）、参加希望者の方に事前アンケートとして、過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）をたずねました。
- 以下は、回答いただいたご意見を表現はそのまま、主な意見を抜粋して掲載しています。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
人(世帯)	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 若い世代が増えた。 空き地に住宅建設が続いており、若い夫婦の転入が増えてきた。 <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 南町田グランベリーパーク駅周辺の人口増加。 南町田グランベリーパークができて、楽しく買い物ができるようになった。若い人が少し増えてきている。 	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化が著しい。 過疎化、老齢化の進行。 空き家が増加。 <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化社会の進展。 高齢者の孤立化。 少子高齢化。 人口の偏りがますます大きくなっているのではないのでしょうか。 駅が近いなど、移動に便利なところが限られている。 自家用車を使う人が多いが、自転車や徒歩での移動をしようと思える町にしていくべきだと思います。
つながり、意識	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校などの努力で子どもたちがよくあいきつできる明るい地域である。 <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会活動を通じた地域住民の皆様方のコミュニケーションの活性化。 自治会活動を通じた地域住民同士の円滑なコミュニケーション。 スポーツコミュニケーションによる人の意思伝達の専門化。 医療・介護・福祉の事業者の活動を通して、事業者同士の関係ができてきているように感じます。 犬や猫等ペットの飼育による動物愛護精神の発育。 	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> アパートの人達との接点がない。 新しい家が建ち、若い人たちが増えているが、コミュニティが減っているように感じる。 子育て世帯と地域のシルバー世帯とのつながりが少ない(変わらない)。 人間関係が疎遠になった。 新型コロナの影響により、地域のつながりが薄くなった 地域連携の希薄化。 <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションが不足している。 コロナ禍で人との繋がりが疎遠になった。 コロナで交流が少なくなった。外出の機会が減り筋力低下。 コロナ禍で、直接会って交流する機会が無くなった。 コロナもあり、地域の方との接点がなくなってしまった。 小学校のベルマーク活動のお礼で、老人ホームに行けなくなった。
活動	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉まつり開催による地域コミュニティの育成が図られてきた。ただし、この2年間は開催中止で、危機感あり。 小川地域では防犯パトロール。青パトなどで力を入れてきたので、安心安全なまちづくりができています。 西田町内会と協働で「親子でヤキモプロジェクト」を4回継続で実施。地域交流の一助となった。 活動を長くやっていると地区の人達と「みつ」になっている。 <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 年齢の別け隔てがないイベントがあった。鶴間公園でのラジオ体操や、鶴間パーク大作戦など。 まちライブラリーでの活動もとても良いです。 民間発のプロジェクトや取組みが増えてきたように感じます。 シェアサイクル。 小学校の縦割り活動が無くなった。 	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴い(独居者の増加)、自治会退会される方が多くなった。 自治会など未加入、地域とのつながりを求めない人の増加。 自治会や子ども会の加入率の低下もみられることから地域のつながりが希薄になっているのではないかと。 若い人が、自治会・老人会などの団体加入に消極的傾向。 高齢化、老人会婦人会廃止。 子育ての孤立化。 地域イベントが減った(コロナの影響)。 子育て、孫育てが終わった60歳代くらいの方のボランティア希望の方が増えてほしい。 <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方に昔遊びなど教えてもらえなくなった。 高齢化が進んでいるのと、コロナ禍で、地域に人が出なくなった、活動も萎んでいる気がします。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人が活躍できる機会が増えた。(まちライブラリーや鶴間パーク大作戦など) ・ 地元 J チームの成績躍進によるスポーツ活動の強化。 ・ 地域、地域の特色の相互協力関係によって生まれた様々な形での財産。 ・ 国際交流の活性化による市民の国際性の発展。 ・ 良い変化と言えるかは別ですが、当自治会の自治委員(班長)の年代が世代交代したように感じます。働き盛りの 40、50 代が班長の中心になっています。 	
場所(施設)	<p><2021 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のふれあいサロン、子育てサロンが増えた。 ・ 保育園が増えた、待機児童解消の取組み。 <p><2022 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鶴間公園が整備されて、遊びやすくなっていると感じる。 	
まち・交通	<p><2021 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業施設が再開し、活気が出た。 ・ 南町田グランベリーパーク周辺の開発による活性化 ・ 南町田グランベリーパークがオープン、便利。 ・ ドラッグストアが増えたことで買い物がしやすくなった。 ・ 「安全・安心なまち」の感じがするようになった。 ・ 医療機関の充実。 ・ 西田峯山公園と林が整備されて、通学路が安全になった。大型ごみの不法投棄が減少。 ・ ゴミや犬の糞などがなくなり、道路がきれいになった。 ・ 鶴間の立体交差工事が完了して町田街道と周辺道路渋滞が緩和された。 <p><2022 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ F.C 町田ゼルビアの躍進によりまして、街そのものが明るくなった様に感じます。 ・ 南町田グランベリーパークができて賑わいが戻った。 ・ 落ち着いた環境。 ・ 道路上の犬のフンの放置が減った。 ・ 地区行事が少なくなって寂しい。近所の集積場の不法投棄が減った。 ・ 政治家の活躍による住居環境の改善。 	<p><2021 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間にたぬき、ハクビシンなどが出没する。 ・ 車の多さ、子どもたちが事故に巻き込まれないか心配。 ・ 地形的にアップダウンが多く、住民の高齢化が進み、買物のための送迎の車を出してほしい。 ・ 個人商店の消失。 ・ 店舗が少ない中、閉店が続き、新規店舗も長続きしない。 ・ 農地転用期限がくるため、緑の地域が減少する。 ・ 不審者が増えた。 <p><2022 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道が渋滞するようになった。 ・ 商店の衰退。 ・ 木が伐採された。 ・ 広い敷地の家が取り壊され、そこに密集状態の家が建ち、樹木などが減った。 ・ ゴミのポイ捨てが多くなった。 ・ 比較ではないが、ゴミのポイ捨てが目立つ。 ・ 大学教育の質の劣化による地域の治安の悪化。
その他	<p><2021 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費の時代から修理して使う考えに変わった。 ・ 変化が全くない点。 ・ 変わりなし、という変化。人口減少につれて、地域も衰えていくが、その悪影響が見えない。 <p><2022 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインが得意になった高齢者が増えた。 ・ 高齢者介護事業所の介護従事者の方々の御尽力により、かなり福祉職の内容、印象、共に改善されて来た様に思います。 ・ まだまだ課題はあるが医療、福祉のネットワーク強化。 ・ 介護事業の発達。 ・ 市議、都議、国会議員お一人お一人の責任ある業務遂行により、生活自体がかなり改善されて来た様な気がします。 ・ スーパーマーケット、コンビニエンスストアの活性化による商売活動の繁栄。 ・ コンビニやスーパーの営業活動により、経済活動も活性化して来たのでは。 ・ コロナ禍の影響によりテレビや広告業界等のマスコミ 	<p><2021 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日中独居の高齢者率がますます増加。ギフトなどを使った高齢者詐欺が、コンビニ中心に多発していると感じる。 ・ 特殊詐欺が増えている。 ・ 文化的要素が何もない。 ・ 治療会場の確保が難しくなった。 <p><2022 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウィルスと言う得体の知れない存在の怖さから来る生きて居る事、人生そのものが脅かされて居る様な、焦燥感の様な感覚に満ちた生活自体、かなりの脅威です。 ・ カラスが増えた。ネットをシッカリかけていないと、ネットの横からゴミ袋に穴を開けてあさっている。 ・ 宗教法人の孤立化。 ・ 町田街道沿い OK スタア駐車場右折入庫右折出庫。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
	<p>関係者の皆様の在宅勤務傾向により、地域の知的財産が充実したのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子マネーの利用促進化サービスによる経済活動の活性化。 	